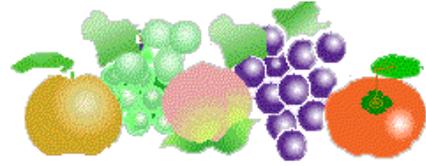


令和4年度 しらかわ果樹情報第3号



令和4年4月28日
福島県県南農林事務所農業振興普及部

1 気象概況

4月3～5半旬の平均気温は11.7℃で、平年より1.5℃高くなりました。また、この期間の降水量は35.5mmで平年の99.7%、日照時間は62.9時間で平年の106.9%でした。

表1 月別気象表（白河市）

平年：1981～2010年

月	半旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比（%）	本年	平年	平年比（%）
4	3	13.8	9.7	4.1	20.6	15.4	5.2	7.5	4.3	3.2	21.0	17.4	121	29.8	29.8	100
	4	9.5	10.6	-1.1	15.3	16.4	-1.1	4.1	5.3	-1.2	14.5	18.4	79	33.1	29.1	114
	5	14.0	11.2	2.8	19.7	17.0	2.7	6.7	5.9	0.8	0.5	3.7	14	6.5	5.9	110
平均・合計		11.7	10.2	1.5	18.0	15.9	2.1	5.8	4.8	1.0	35.5	35.8	99.7	62.9	58.9	106.9

2 向こう1か月の天候の見通し（令和4年4月21日 仙台管区气象台発表）

向こう1か月の気温は高い見込みで、特に期間の始めはかなり高くなる見込みです。降水量と日照時間はほぼ平年並です。週別の気温は、1週目（4/23～4/29）は高い確率80%、2週目（4/30～5/6）は平年並の確率50%、3～4週目（5/7～5/20）は高い確率40%でほぼ平年並の見込みです。

3 発育状況

（1）各樹種の開花状況（白河市）

開花始はモモ「あかつき」が4月11日で平年より5日早く、ナシ「幸水」が4月18日で平年より5日早く、「豊水」が4月13日で平年より8日早く、リンゴ「ふじ」が4月22日で平年より7日早くなりました。

開花盛はモモ「あかつき」が4月14日で平年より7日早く、ナシ「幸水」が4月21日で平年より6日早く、「豊水」が4月18日で平年より7日早く、リンゴ「ふじ」が4月25日で平年より9日早くなりました。

表2 各樹種（品種）の開花状況（白河市）

樹種	品種	開花始観測日			開花盛観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
モモ	あかつき	4月11日	4月16日	3月31日	4月14日	4月21日	4月8日
ナシ	幸水	4月18日	4月23日	4月13日	4月21日	4月27日	4月16日
	豊水	4月13日	4月21日	4月8日	4月18日	4月25日	4月13日
リンゴ	ふじ	4月22日	4月29日	4月20日	4月25日	5月4日	4月24日

注1）平年は1992～2020年の平均値。

(2) ブドウ・カキの発育状況（果樹研）

ブドウ「巨峰」の発芽は、4月13日で平年より4日早くなりました。カキ「平核無」の展葉は4月12日で、平年より7日早くなりました。

表3 各樹種（品種）の発芽・展葉状況（果樹研）

樹種	品種	発芽観測日			展葉観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ブドウ	巨峰	4月13日	4月17日	4月7日	未	4月24日	4月17日
カキ	平核無	4月8日	4月4日	3月25日	4月12日	4月19日	4月5日

注1) 平年はブドウは1992～2020年、カキは1995～2020年の平均値。

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

4月上旬から気温が平年より高く経過したため、全ての樹種で生育が前進しています。第1号を参考に防霜対策を万全にして備えましょう。なお、添付資料「果樹の発育ステージと防霜対策のための温度指標」、「4月26日から2週目までの気温の見通し（福島地方気象台）」も参考にしてください。

(2) 人工受粉

開花期の低温や強風、乾燥条件は結実が劣る原因となるので、人工受粉をより丁寧に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数としましょう（発芽率30%以下の花粉は希釈せずそのまま使用する）。受粉期間中は、花粉をできるだけ涼しい場所（冷蔵庫が望ましい）に密封して保管し、花粉発芽率の低下を防ぎましょう。

(3) モモの着果管理

凍霜害対策等でやや多めに花を残している園地が散見されます。今後乾燥条件となった場合、小玉傾向となる恐れがあります。また、花が多いと春型枝病斑の発見が困難となる恐れもありますので、適切な着果管理を行いましょう。

5 病虫害防除の留意点（使用薬剤は防除暦を参照してください）

(1) 病害

ア リンゴ黒星病

- ・会津地域研究所における罹病落葉からの子のう胞子の飛散は既に確認済み。
- ・重要な防除時期は開花期前後。昨年本病の発生が認められた場合は、開花直前に有効なDMI剤のいずれか（FRACコード：G1、防除暦参照）を使用し被害防止に努める。

イ モモ灰星病

- ・花腐れは果実への伝染源となるので、見つけ次第摘除し、適切に処分する。

ウ ナシ黒星病

- ・重要な防除時期は開花期前後。落花直後に効果の高いDMI剤（FRACコード：G1、防除暦参照）を十分量散布する。
- ・果樹研究所での花そう基部病斑の初発生は4月13日に確認。県南地方管内では未確認。→花そう基部に発病している場合は、中・長果枝の花芽の鱗片が脱落せずに付着しているため、見つけ次第除去して適切に処分する（図1）。



図1 ナシ黒星病の花そう基部（芽基部）病斑の発見の目安

エ モモせん孔細菌病（春型枝病斑）

★本年の発生は昨年より多い！（4月25日現在）（表4）

- ・発生初期の密度抑制が重要。こまめに巡回し病斑の早期発見とせん除を徹底。
- ・せん除は、罹病枝を病斑部の周辺を含めて可能な限り基部まで切り戻す（図2）。
- ・樹冠上部での発生を見逃さないように注意し、直下への被害拡大を防止する。
- ・発生は長期間にわたるため、せん除は定期的に複数回実施する。

★落花後に銅水和剤（クプロシールド）を使用する際の注意点★

- ・薬害の発生を軽減するため、炭酸カルシウム水和剤（クレフノン 100倍）を、必ずバケツ等で一次希釈を十分に行ってから加用する。
- ・薬剤が沈殿しないように攪拌しながら散布を行う。
- ・高温時の使用や連用は、薬害が発生しやすくなるおそれがあるため避ける。

表4 モモせん孔細菌病の発生状況（白河市、品種：あかつき）

調査地域	春型枝病斑発生率（%）		
	本年	昨年	一昨年
実証ほ（東上野出島）	3.0	0.0	7.5
対照ほ（同上）	7.0	0.5	11.0
実証ほ以外（本沼）	1.0	0.0	3.5

（調査日：本年4月25日、昨年4月27日）

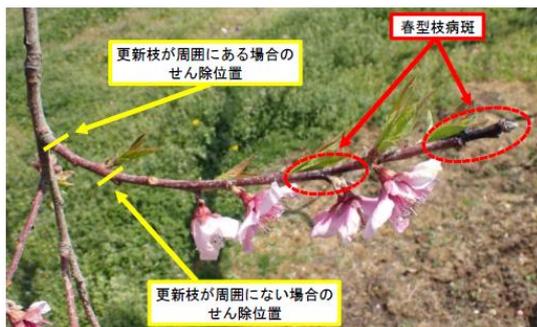


図2 春型枝病斑のせん除位置

(2) 虫害 ※表5参照、時期は果樹研究所における推定

ア モモハモグリガ

- ・越冬世代成虫の発生盛期は、4月3半旬頃と推定。
- ・第1世代幼虫の防除適期は、4月5半旬頃と推定。
- ・ミツバチ等の導入園では巣箱回収後、速やかに防除を行う。

イ リンゴモンハマキ

- ・越冬世代の発生盛期は気温が2℃高く推移した場合、5月2半旬頃と予測。
- ・第1世代幼虫の防除適期は、5月5半旬頃と推定。
- ・リンゴコカクモンハマキもこれに準じるものと考えられる。
- ・昨年本種の発生が多かった園地や、現在花や新葉に食害が見られる園地では、ミツバチ等巣箱回収後、リンゴでは落花直後、ナシでは落花1週間後に本種に登録のある殺虫剤を使用する。

ウ リンゴハダニ

- ・越冬卵のふ化盛期は、4月4半旬頃と推定。
- ・越冬卵密度の高い園では、落花後以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を使用する。
- ・ミツバチ等を導入している園地では、巣箱回収後に防除を行う。

エ カメムシ類

- ・クサギカメムシの越冬成虫による被害は幼果の段階から発生する可能性がある。
- ・山間部や山沿いの果樹園では、飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行う。

表5 果樹研究所における防除時期の推定（令和4年4月19日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ		リンゴハダニ
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬卵 ふ化盛期
2℃高い	4月13日	4月22日	5月10日	5月24日	4月18日
平年並	4月13日	4月22日	5月16日	6月1日	4月18日
2℃低い	4月13日	4月23日	5月24日	6月10日	4月18日

起算日：3月1日（演算方法は三角法）